

令和2年11月市議会 教育厚生委員会資料

所管事項調査に関する資料

目次	ページ
1 感染症研究拠点整備に関する諸会議の 開催状況等について .....	1 ~ 5

市民健康部  
令和2年11月



# 1 感染症研究拠点整備に関する諸会議の開催状況等について

前回の所管事項調査以降に開催された会議等については、次のとおり。

## (1) 長崎大学における感染症研究拠点整備に関する地域連絡協議会

### ア 目的・委員構成等

設置者	長崎大学
設置日	平成28年4月1日
設置目的	検討状況に関する情報の地域住民への提供を行うとともに、地域住民の安全・安心の確保等について協議。
委員構成	近隣連合自治会長・自治会長（7名） その他地域住民等（公募委員）（5名） 学識経験者・専門家（7名） 行政（長崎県医療政策課長・長崎市地域保健課長）（2名） 長崎大学（長崎大学副学長ほか）（7名）

### イ 直近の開催状況

回数	日時	主な議題
第30回	令和2年8月21日（金） 17時30分～19時30分	① 令和2年度地域連絡協議会委員について ② ご報告事項について ③ 委員からの質問・意見への回答について
第31回	令和2年8月25日（火） 17時30分～19時30分	① 委員からの質問・意見への回答について ② 安全管理に関する検討状況について
第32回	令和2年10月14日（水） 17時30分～19時30分	① ご報告事項について ② 委員からの質問・意見への回答について ③ 安全管理に関する検討状況について

### ウ 主な意見等

#### 【第30回】

長崎大学より公募委員の公募結果、建設工事の進捗状況、令和元年度予算の執行状況、第8回長崎大学高度安全実験施設に係る監理委員会の開催状況、研究棟の建設計画などについて説明がなされた。

- 現在4階躯体工事、外壁工事、1階から3階の仕上げ工事を行っている。
- 令和2年2月21日開催の第8回長崎大学高度安全実験施設に係る監理委員会では、委員から次のような意見をいただいた。
  - ・施設の安全管理体制には、病原体を取り扱う研究者もその構成員に取り込む必要がある。
  - ・実験室の使用を制限する場合、必要に応じて学長が命じることとなっているが、災害などの緊急時に即時に対応できるような規定が必要である。
  - ・住民が安心できるよう住民に寄り添った対応に引き続き尽力してほしい。
- 現在分散している施設・安全管理部門、地域連携部門、総務部門、研究部門、人材育成部門の組織を集約するとともに、研究準備や教育訓練を行える環境を整備するため、実験棟の隣接地に研究棟を建設するよう計画を進めている。

委員からの質問・意見も含め、主な質疑は次のとおり。

質問・意見	<p>① 工事現場には県外から作業員が入っているが、新型コロナウイルス感染症の感染対策について教えてほしい。</p> <p>② BSL-4 施設には BSL-2 と BSL-3 の実験室も整備されるようだが、研究棟にも BSL-2 と BSL-3 の実験室が整備されるのか。</p> <p>③ 情報を積極的に県民に広報、PRして知らせるべきである。</p>
回答	<p>① 緊急事態宣言後は手指消毒等の通常の感染防止対策に加え、PCR検査を行い、感染していないことを確認したうえで工事現場に入ってもらっていた。緊急事態宣言解除後は、通常の感染防止対策を取りながら工事を進めている。</p> <p>② 実験棟に入れない留学生や大学院生の教育研究も非常に重要なことなので、研究棟にも BSL-2 と BSL-3 の実験室を要求しているところである。</p> <p>③ 長崎大学病院で作成した高齢者施設や医療機関での新型コロナウイルス感染症の感染防止をテーマにした動画は、多くの方に閲覧されているので、こういったものをさらに積極的にPRしていきたい。</p>

【第31回】

委員からの質問・意見への回答がなされたあと、アメリカ国立衛生研究所が作成したBSL-4 実験室内でのトレーニングのビデオが上映され、陽圧防護服を着用し、2人1組で相互監視しながら行う実験について説明がなされた。

委員からの質問・意見も含め、主な質疑は次のとおり。

質問・意見	<p>① マニュアルを作成するにあたっては、長崎大学だけで検討するのではなく、地域連絡協議会で話し合ったうえで、意見を反映したものを作成してもらいたい。</p> <p>② 施設が稼働するまでには、安全のためのソフト面がきちんと出来上がっていることが住民にとって一番の安心だと思うので、専門部会を立ち上げるなどの方法を提案する。</p> <p>③ 施設の建設が進む中、また、新型コロナウイルス感染症が感染拡大している中で、住民の不安が非常に気になり、平野町山里自治会・山里中央自治会で企画し、住民アンケートを実施した。</p> <p>その結果、新型コロナウイルス感染症の発生を受け、施設の重要性を感じる一方で、もしもウイルスが漏れて事故が起きたらとの不安を抱えている声も多かった。</p>
回答	<p>① 実験者の情報、実験内容、実験動物、汚染物、実験スーツのことなどについてどのような対応を考えているのかを地域連絡協議会で説明しながら意見交換するような方法を提案したい。</p> <p>② どうやってリスクを乗り越えていくかが一番肝の議論であるとの認識は同じなので、竣工までに粗々なものを作り、竣工後、厚生労働省に確認しながら作りあげていきたい。その方法については検討したい。</p> <p>③ 住民アンケートの結果から期待も不安もあることを再確認した。不安な声に対しては、今後、一つ一つに対応した取組みを行う中で理解を得られるようにしていきたい。</p>

【第 32 回】

長崎大学より建設工事の進捗状況、学術研究のロードマップ 2020 への採択、安全管理の検討状況などについて説明がなされた。

また、文部科学省から令和 3 年度予算の概算要求について説明がなされた。

- 現在、最上階と塔屋の躯体工事、1 階から 5 階の仕上げ工事、外壁工事を行っている。
- 多額の経費を要する大型学術プロジェクトに国として優先度をつける「ロードマップ 2020」に本計画が優先度が高いとして採択された。日本で唯一の施設なので、いろいろな大学と連携しながら共同利用する体制を作るようにとの指摘をいただいている。

委員からの質問・意見も含め、主な質疑は次のとおり。

質問・意見	<p>① BSL-4 施設で何か有事があった時に、どのように住民に知らせてくれるのか心配なので、防災ラジオやサイレンなど提案してきたが、長崎市の検討状況を知りたい。</p> <p>② 何か起こった時の補償について、長崎大学では予算も限られていると思うので、カバーできない場合には国が必要な支援を行うということについて、これまで国と協議等をしたことがあるのか。</p>
回答	<p>① 長崎大学とは情報伝達の手段、方法、タイミングなどについて、定期的に打ち合わせを行っている。想定を超えるような事態が生じた場合にどういう伝達方法が一番良いのかを今判断するのは難しいので、今後施設が完成し、訓練が行われていく中で、どういうタイミング・手段で伝達するのが一番よいかなど検討を進めている。</p> <p>② 関係閣僚会議において、事故・災害等が発生した場合は、国が必要な支援を行うことで方針決定がなされているので、これに基づいてきちんと関係省庁が対応することになっている。</p>

(2) 今後のスケジュール

実施時期	内容
令和2年12月19日(土)	市民公開講座の開催(オンライン) 「身近に潜む感染症と向き合う」 講師 長崎大学感染症共同研究拠点 好井教授

※地域連絡協議会の報告会、自治会・関係団体等への説明会、市民公開講座等を随時開催予定としているが、現在、新型コロナウイルス感染症の影響により、報告会や説明会の開催が困難な状況となっている。

長崎大学では、地域連絡協議会での議論等をまとめた「BSL-4 Report」を発行し、近隣6自治会の全世帯へポスティングするとともに、ふれあいセンターや公民館等に配布し、地域住民への周知に努めている。